

都 城  
盆 地

# 畑地かんがいだより

令和3年2月発行

VOL. 33



**畑地かんがい**（通称「畑かん」）とは、農作物の水不足の解消や計画的な水の供給などを目的に、ダムから地中のパイプを通して、畑に水を供給することです。

都城盆地においても、水源となる木之川内ダムや水を引くために必要な施設などを整備し、都城盆地内の畑に水を送り届ける事業を行っています。この事業により、天候に左右されない安定した水の供給を確保することができ、農作物の生育促進や収量増にも大きく貢献しています。

本誌では、「畑かん」を利用して農業に取り組む人たちの活躍を紹介します。

# これからの 農業の 話をしよう



太陽ファーム 牧田 幸司朗さん

昨今の少子高齢化により、農業現場でも、担い手不足や農家の高齢化など多くの課題に直面しています。

これらの課題解決の糸口として注目されているのが、**スマート農業**です。ロボットやAI等の先端技術を農業の生産現場に導入することで、例えば、ほ場から離れた場所にながら、遠隔操作でかん水作業を行うことが可能となり、現場の人手不足に貢献することが期待されます。

今回、「この「スマート農業」と「畑かん」を組み合わせる試みに取り組んでいる(有)太陽ファーム取材しました。

## 畑かん×スマート農業=広がる農業の可能性

### 「畑かん」と出会って

「キャベツの作付けを計画的に行うために畑かんの利用を始めました。」

農作物は畑に苗を植えた後、畑の土にしっかりと根が張る『活着』まで、しばらくの間、十分な水を必要とします。これまでは降雨を頼りにしていたため、日照り続きのときは水不足により、活着がうまくいかずに苗が枯れてしまうこともありました。そうすると、収穫の時期が遅れたり、収量が不安定になってしまいます。

畑かんを利用してからは、必要な時に必要な量の水を確保することができるようになりました。計画的に作付けを行うことができ、結果として安定した収量を確保することができるようになりました。(牧田さん)



### 畑かん×スマート農業

牧田さんは現在、『自動畑地かんがいシステム』の効果実証をテーマの一つに掲げて、<sup>\*</sup>農林水産省のプロジェクトに参加しています。

このシステムは、「畑かん」と「スマート農業」の技術を組み合わせることで、システムの導入により、ほ場から離れた場所においても、スマホ等での操作で農作物へのかん水が可能になります。「システムを導入したことで、わざわざほ場まで行かなくても散水できるようになり、これまでの手間が省けました」と話す牧田さん。

「畑かん」の利用により、必要な時に必要な量の水を確保できただけでなく、「スマート農業」との組み合わせ

↑自動散水の様子。スマホからの遠隔操作で、ほ場になくても、散水が可能です。

↑畑の状況(土壌水分など)をデータ化して蓄積しています。

により、現場での労力の削減や作業の効率化を実現できたことは、今後の農業において大きな一歩です。

大きな可能性を秘めたスマート農業の世界。天候や生育状況などに左右され、マニュアル通りにはいかない農業分野での新たな挑戦が、これからの農業に新しい可能性を示しています。

\*農林水産省「スマート農業技術の

開発・実証プロジェクト」



↑「オフィスにいながら、遠く離れたほ場の状況を管理できます」と牧田さん

# お茶農家一家の 新たな挑戦



拓誠さんの機械操作を見守る、  
父俊蔵さん。親子の息の合った  
連携プレーです。



## お茶農家、 ニラ栽培に挑戦!

秋晴れが気持ちの良い十月初旬、長岡さん家族は総出で、今年最後のお茶(秋冬番茶)の収穫を行っていました。息子の拓誠さんが収穫機で刈取った茶葉を、父親の俊蔵さんが専用の集荷トラックいっぱいに向けて製茶工場へ運びます。

例年この作業が終わると、お茶農家の一年が終わり、長岡家の仕事も一段落つきます。しかし、今年の長岡家は違います。一息つく間もなく、ある新しい試みに取り組んでいます。それは今年から挑戦している「ニラ」の栽培です。お茶栽培の傍ら、茶畑の一角にニラを栽培するためのハウスを建てると、半年以上前から準備を進めてきました。

お茶以外の作物に取り組むのは初めての試みということで、周りの人にアドバイスをもらい、試行錯誤を重ねながら一歩ずつ進めています。

そして、ニラ栽培を始めるに当たり勧められたのが、「畑かん」の利用だったそうです。

茶畑の一角に  
ポツンとニラハウス  
in 山之口町



## 家族の挑戦は つづく…!

つづく…!

ニラは「多年草」で、一度植えると、刈取り後も同じ株で何度も収穫できる野菜です。この刈取り後の株に十分な量の水を与えられるかどうかで、その後のニラの生育が左右されるといいますが、ここで活躍するのが「畑かん」です。

「刈取り後は、水が一番必要です。水があるかないかで、ニラの成長スピードや品質が全然違います。畑かんを利用すれば、天気を気にせず、必要な時に必要な量の水を確実に与えられるので、ニラ栽培には欠かせません」と俊蔵さん。

また、「コストの面においても畑かんの利用は欠かせないといえます。

「ハウスで栽培をする場合、水の確保は非常に重要です。畑かんを利用しない場合、数百万円以上をかけてボーリング工事を行い、ハウス内に水を供給しなくてはなりません。その点、畑かんは年間数万円ほどの水利用費を支払うだけで利用できるのです、とても助かります」

現在、県の普及センターと協力してニラの新しい栽培方法にも挑戦しているという長岡さん家族。

「ニラの栽培は、あらゆることが初めてなので、これからのいろいろ経験していくと思います」

そう話すのは、ベテラン農家の祖父、俊一さんと祖母の美喜子さん。

お茶農家一家の新たな挑戦は、これからも続きます。



畑かんユーザー  
活躍中!

# 広がれ! 畑かんの輪

山之口町 ver

「畑かんの水」と「人とのつながり」



↑ 小濱さん(奥中央)と地域住民の皆さん

今年、ショウガの栽培に初めて「畑かん」を使ったという小濱充明さん。その感想を伺うと、「農作物の栽培には、畑かんが必要!」と力強く話してくれました。「畑かん」で十分な水を確保できたことで、収量や品質も納得のいくショウガができたようです。

ただ、「たくさんできたので、収穫する人手が足りません」と、嬉しい悲鳴をあげる小濱さんのもとに、心強いメンバーが駆けつけてくれました。地域住民の皆さんです。

「これからの農業に必要なものは、『畑かんの水』と『人とのつながり』です」と笑顔で話す小濱さんは、素敵な仲間にもまれて、ショウガの収穫を無事に終わりました。

## 今年も、美味しいキンカン実りました♪

収穫まであと1か月と迫った12月初旬。キンカン農家の南茂博さんの畑にお邪魔しました。ハウス内には鮮やかなオレンジ色のキンカンがたわわに実り、ひと玉摘むと、爽やかな香りが広がります。じっくりと樹上で熟成させる南さんの完熟キンカンは、非常に甘く、丸々と太っています。そして、この完熟キンカンを育てるのに欠かせないのが「畑かん」です。「糖度を上げたり、玉を太らせるには、

十分な量の水を適度に与えることが必要です。今年も、畑かんの水を使って美味しいキンカンが育っています」と南さん。収穫まであと少し。じっくりゆっくり熟成させて美味しく育ったキンカンが、今か今かと収穫の時を待ちわびています。



↑ 手塩にかけて育てたキンカンの出荷まであと少し。立派に育ったキンカンを愛おしそうに見つめる南さん

## お知らせ

## 畑かん用散水器具の貸出しについて

都北町別館の業務移転に伴い、貸出し場所が以下のとおり変更となります。ご利用の際は、最寄りの事務所までご連絡ください。

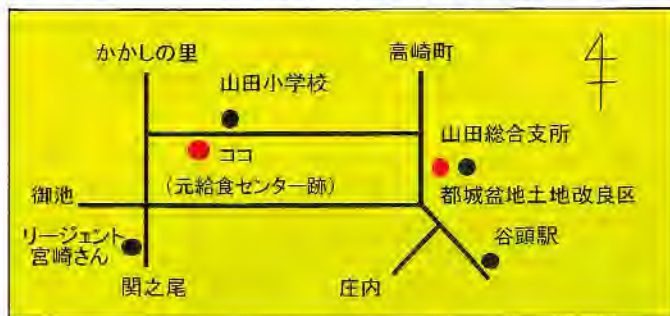
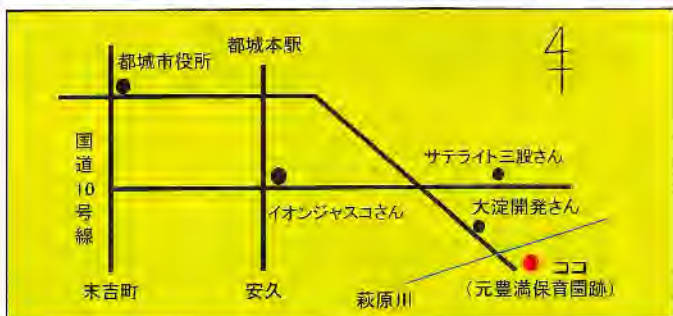
(※畑かん受益地[事業継続中のエリア]に畑をお持ちの方に限ります)

①都城市役所 農産園芸課(電話 23-2425)

対象地区: 姫城、五十市、梅北、安久、山之口、三股

②都城盆地土地改良区(電話 45-6695)

対象地区: 志和池、庄内、西岳、高城、山田、高崎



発行元

都城市 農産園芸課  
畑かん営農推進担当  
住所 都城市姫城町 6-21  
電話 0986-23-2425

北諸県農林振興局  
①農村計画課 ②農村整備課  
住所 都城市北原町 24-21  
電話 ①0986-23-4514  
②0986-23-4515

北諸県農業改良普及センター  
普及企画課  
住所 都城市高木町 6464  
電話 0986-38-1554

三股町役場  
農業振興課  
住所 北諸県郡三股町五本松 1-1  
電話 0986-52-9089